

平成19年度西海ブロック水産業関係研究開発推進会議
地域増養殖研究部会報告書

会議責任者	西海区水産研究所長
-------	-----------

1 開催日時及び場所 日時 平成19年11月6日(火) 9:30-12:30
場所 西海区水産研究所大会議室

2 出席者所属機関及び人数 10機関40名

3 結果の概要

議 題	結 果 の 概 要
開会	西海区水産研究所海区水産業研究部長が開会を宣言。
挨拶	石垣支所長から、本部会の開催趣旨の説明を含めた挨拶があった。
座長選出	西海区水産研究所有明海・八代海漁場環境研究センター長を座長に選出。
議事	
1) 研究開発の実施状況	各機関の研究課題の実施状況に関する資料について概要を説明し、内容に関する照会は該当機関へ直接行うこととした。
2) 研究開発の成果	<p>各県から6題、水研センターより4題の研究成果の紹介がなされた。西海水研石垣支所の「ヒメシャコガイ幼生の正常な発育と水質との関係」については、供試数が少ないことから西海ブロック水産業関係研究開発推進会議(以下、推進会議)へ成果情報として上げることについて再検討することとなったが、他の課題については以下のように追加、訂正を行った上で推進会議に上げることとした。</p> <p>福岡県の「タイラギ斃死と殻形状の変化」、佐賀県の「水槽試験による植食性ベントス5種の海藻摂食量の比較」、および沖縄県の「シャコガイ母貝の成熟促進技術開発」については、字句や図の縦軸説明の追加、訂正などをそれぞれ行うこととした。佐賀県の「アゲマキ種苗の大量生産技術開発に関する研究」については、表にデータを追加の上、「炭酸ガスとエタノール製剤との併用によるクロアワビ稚貝の剥離処理」については、</p>

議 題	結 果 の 概 要
<p>3) 研究開発のニーズと具体的な取り組み</p> <p>① 魚介類研究会報告</p> <p>② 平成 18 年度研究ニーズへの対応</p> <p>③ 平成 19 年度研究ニーズへの取組方針</p> <p>④ 新規研究会提案</p>	<p>原案でそれぞれ推進会議へ上げることとした。鹿児島県の「鹿児島湾における藻場の変化とその特異性」については、種のデータを加筆することとした。また、水研センター奄美栽培漁業センターの「クロマグロ若齢魚での採卵に成功」については、魚体長等の情報の追加を、西水研の「長崎県沿岸におけるアワビ類産卵期の遅延」については、字句の訂正を、「タイマイの安定採卵技術の開発」については、図の説明の修正をそれぞれ行うこととした。</p> <p>5月に開催された同研究会では、温暖化研究の現状、南方系ホンダワラ類の暫定的分類、瀬戸内海の藻場の現状、最近の藻場調査方法に関する話題提供、藻場関連研究の現状に関する報告、および外海沿岸域の高水温化への具体的対応として新規研究会の立ち上げの必要性が議論された旨を報告した。</p> <p>エチゼンクラゲ（大型クラゲ）、タイラギ、ガザミ、粘質状浮遊物のそれぞれについて平成18年度の対応結果を説明した。</p> <p>提案県である福岡県および佐賀県からノリ関係3題、シャトネラ赤潮関係1題の研究ニーズの趣旨説明があり、西海水研からそれぞれへの取組方針（案）を説明し、協議した結果、原案が了承された。</p> <p>新たに「水温変動沿岸資源影響研究会」の設置に関する趣旨説明が西水研沿岸資源研究室長からなされた。本研究会で取り扱う範囲については、絞り込むべきあるいは広く扱うべきなどの議論があったが、当初は幅広く場の環境を含めた情報収集を行い、次の段階として対象とするテーマや種等を絞り込むこととなった。当研究会は地域増養殖研究部会の傘下に設置することを推進会議へ上げることが了承された。</p> <p>事前に行った新規研究会立ち上げに関するアンケートに回答があった熊本県からスミノエガキとシカメガキを想定した「地域特産種に関する研究会」について、西海水研からカキ類およびタイラギを対象とした地域特産二枚貝研究会を発足し</p>

議 題	結 果 の 概 要
<p>4) その他</p> <p>閉会</p>	<p>たい旨の説明がなされた。「地域特産種に関する研究会」については、他機関からの他種の提案がない場合は西海水研提案の「特産二枚貝増産研究会」に内容を引き継ぎ、有明海・八代海研究部会に置く案を推進会議に報告することとなった。スミノエガキとシカメガキ以外の他種を対象とした追加提案が出された場合には、再度検討することとした。上述の論議を踏まえ、後日各機関へ提案された研究会への参加の意思を確認することとした。</p> <p>9月に開催された平成19年度全国ノリ研究会の報告がなされた。</p> <p>海区水産業研究部長が閉会を宣言。</p>